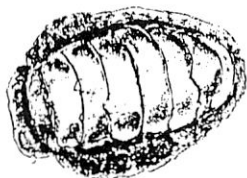
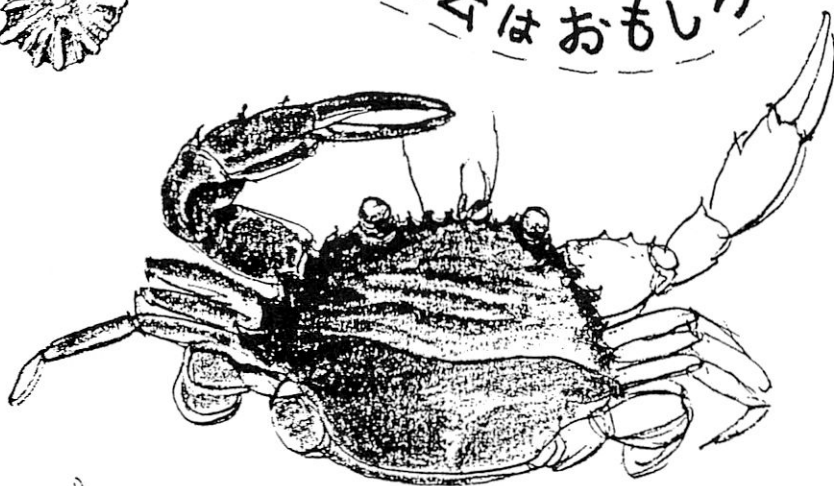


協議会ニュース

69号

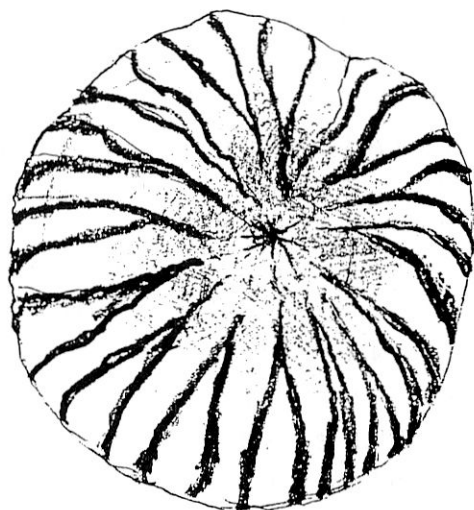
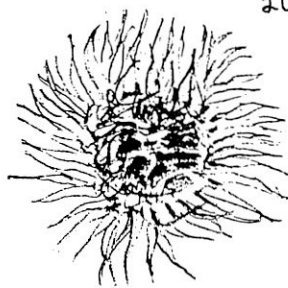
愛知県自然観察指導員連絡協議会 1998.7

”海”の観察会はおもしろい。



知多支部主催「野間海岸の観察会」に参加しました。海
辺の観察会はどうな形で進められるのかとても興味があり
ました。集められた収獲物(?)がバ

ットに分けて入れてあるのを見
てびっくり。貝類、甲かく類、藻
類などその種類の多さと、
形の面白さ不思議さに目を
見張るばかり、時間がなく
て魚が描けなかったのが残念
でした。④



里山の管理について（トヨタの森）

事務局

平成10年度の「話題の地見学会」の第1回目として、5月31日に豊田市のフォレストパーク「トヨタの森」を参加者15名で見学しました。

最近では、里山に関する話題がよく聞かれ、行政による雑木林の園地化や、市民活動としての里山の管理などが増えてきています。前にも名古屋市がオアシスの森として市民参加により整備しつつある相生山（天白区）を見学しましたが、今回はその第2弾ともいえるべきものです。

トヨタ自動車がこうした雑木林の管理を始めたことは新聞でも見ていましたが、感じの良い林の中を歩きながら、里山から離れた人々が、再び里山に戻るといふ一つの時代の流れを感じたことと、こうしたことに取り組む会社の先見性を感じました。

次に、トヨタの森の概要と、里山の管理についての考えの一部をまとめてみます。

※ ※ ※ ※ ※

1 トヨタの森の状況（パンフから）

《環境緑化》

トヨタの森は、トヨタ自動車が豊田市の南東のフォレストヒルズの一画を、自然との共生を実践するモデル林として、様々な試験を行っている場所です。その趣旨や概要を当日配布された資料からまとめてみます。

トヨタ自動車がこうしたことを始めた趣旨は、パンフレットによれば、『21世紀に向けて、ますます深刻になりつつある環境問題の解決のために、発生源対策は当然のこととして、環境に悪い影響のある物質を自然界の循環系の中で浄化する方法についても真剣に取

り組むことが重要であります。トヨタの森では、「自然との共生」を基本理念として、太陽エネルギーにより二酸化炭素を吸収・固定する植物の光合成機能に着目し、緑による環境の改善を目指しています。（環境緑化）

そのためには、緑の「量の拡大」と「質の向上」が必要で、新たな技術を育成するため、モデルとなる場所を選定し、地域の自然環境と調和した森林づくりを実践しています。

（モデル林） 将来は、モデル林で培われた技術を社会に提供し、人と自然が共生できる、より良い環境づくりを実践していきたいと考えています。（実践林）』となっています。

環境を改善する方法の一つである「環境緑化」には、緑の量の拡大と質の向上がに分けて考える必要があり、量の拡大ではいろいろな場所での緑化を進める緑化技術が必要であり、併せて緑の質の向上も緑を活性化するためには非常に大切なこととしています。今の日本の森林には、内部が荒廃した所が多く見られ、このような場所整備し、光と風をうまく導入すれば森林の立体的な活用ができ、緑の面積を増やすのと同じ効果が期待できます。そして、これは熱帯雨林などの環境造林や社会造林を進めるうえでその質が問われてくることから共通する問題でもあるとしています。また、緑の質の向上とともに、生物種の多様性の確保や森林資源の有効活用も重要であり、自然と技術が融合する21世紀の柱となる技術・ノウハウを育てたいとあります。そのためには、具体的に次の3つの視点が重要と考えています。

①「調べる」 過去から現在までの自然環境

生態系の状況を正しく定量的に把握するとともに、手を加えた場合の影響の診断などが必要です。その方法としては地域の微気象の計測や、生物の種について酵素・遺伝子レベルの解析も必要だとしています。

②「育てる」 活力ある健全な緑を育てるには、その土地や目的に応じた育成技術が必要となります。厳しい環境に対応できる新品種の開発から種の多様性も考慮した森林としての働きを持続的に発揮できる育林技術の開発まで幅広い活動が必要です。

③「使う」 森林には資源としての多くの利用があり、その存在そのものにも治山治水や環境にとっては大きな資産となっています。この森林の資源をうまく活用することが大切で、森林の産物は放置すれば分解して二酸化炭素に戻ってしまうため、これらを有効に活用する必要もあると考えています。

《モデル林の内容》

15haのモデル林は、整備ゾーン・保全ゾーン・活用ゾーンの3つに機能区分されています。

整備ゾーンには、クエルカスの育成としてどんぐりの木の見本園、実生苗試験区があり、自然林の育成として、針葉樹と広葉樹、落葉樹と常緑樹が適度に混り合い年齢差のある中下層木の育つ森林をイメージし、広葉樹林の中にヒノキの実生苗を育てたり、ヒノキ林の中に広葉樹を育てたりするとともに（自然林化試験区）、放置試験区を設けて比較しています。その他に竹林の整備やコバノミツバツツジ自生地の育成も行っています。

保全ゾーンでは、絶滅の方向にある貴重な種の保全を目的とし、湧水湿地のハッチョウトンボや周伊勢湾種、シデコブシの保全をそれぞれ保全試験区として設け、公開と保全をレベルに分けて調和させながら管理しています。自然の池の浄化を図り、イトタヌキモなどの保全も考えています。また、化学薬品を

使わずにアカマツの松くい虫に対する活力を高めるための方法の研究なども行っています。

活用ゾーンとしては二酸化炭素問題の対応

のためにも木炭、竹炭また木酢液として活用すること、樹木の葉や枝の農業利用やチップ化して歩道に利用したり、土砂流出防止のソダとして利用しています。また、リサイクル緑化として、根株の利用や幹を差して萌芽を利用する試験等も行っています。



2 里山の管理について（感想）

当日は、一般見学者と同じように林の中の各試験区を整備の方法等を見ながら見ていただいたのですが、具体的な考えやデータを詳しくお聞きせず、十分な勉強もなしでまとめたため、以下に述べるのは事務局の主観的な考えですが、里山を考える何かのきっかけになればと思います。各位のご意見をいただければ幸いです。

《二酸化炭素問題》

この森の整備の背景には、廃棄ガスを出す自動車の会社らしく、二酸化炭素の減少に寄与したいという姿勢が感じられました。しかし、その基本的な考え方はもう少し整理しておく必要があるように思えました。（実際には検討されているのでしょうか）

一つは、森林の内容と二酸化炭素の消費の関係があまりはっきりしないことです。戦後50年にわたり雑木林が放置されたために、遷移が進み、常緑樹林化しつつある林が各地で見られます。それも、カシ林などに移行せずにソヨゴ・サカキ林のようになるもの、松クイ虫のためにマツが枯れて、雑然とした林となっているものも多いようです。こうしたいわゆる質の悪い林と4階建のコナラ林とで二酸化炭素の吸収能力にどれほどの違いがある

でしょうか。葉の面積や生長量等を比較して、その違いを検討する必要があるように思います。また、質の悪い林と良い林に違いがあるとしても、大気の二酸化炭素濃度に影響を与えるほど林相改良をするには、どれほどの面積で実施するべきかまでの検討が必要に思えます。

次に、森林が二酸化炭素を固定しても、落ち葉の分解や木材の腐敗により、やがて二酸化炭素は大気に放出されるでしょう。それを木炭などにしても、燃やせばやはり同じことのように思います。これらのことから、森林の量の増加には増えただけの効果はあるでしょうが、質の向上には二酸化炭素の減少効果がどれほどあるかのデータも欲しい気がしました。

《どんな林にするか》

いわゆる質の悪い雑然とした林や暗い林は見た目に悪く、何とかしたい気がしてきます。明るく林床まで光が入るような林を人間は好みます。しかし、広い区域で林を管理するには、明確な目的のもとに実施する必要があるでしょう。今回見学したモデル林自体は試験研究という目的がありますが、その結果を応用する場合には、治山治水のため、生物多様性のため、人の憩いの場とするためなど目的に応じた管理の仕方が必要となるように思われます。

技術的なこととしては、例えばコナラ林の遷移を止めて、コナラ林として維持する場合でも、いろいろな年齢層のコナラを同一の林に実現することは、一時的には可能かもしれませんが、それを維持することは困難なように思います。もしそれができて、他の樹種にとっては都合の悪い林となる恐れもあります。地質や地形の状況とか土壌の形成、水分要因などによっても結果は変わってくるでしょう。このように林の管理の方法を模索し、研究するには数多くの試験区が必要と思われ

ます。

林の管理には、そこにすむ動物のことも検討する必要があります。生物多様性は、最近よく使われる言葉ですが、これもなかなかわかりにくい部分があります。広い地域で生物の多様性を考えるならば、そこにいろいろな環境があることで可能になります。しかし、一つの林などでの生物多様性とはどんなものであるかは、案外難しい概念です。林から2種類の昆虫が消えて、10種類の昆虫が増えた場合、多様性は増したでしょうが、それが本当に良いことかどうかはわかりません。また、いろいろな昆虫が生息するためには、枯木や動物の糞などもあった方が良いでしょうが、そこまで考えた林の管理ができるのでしょうか。

トヨタの森では、貴重な生物はきちんと保全しようとしており、その点は評価できますが、現在の貴重種とされているものは人の目に良く見えるものが多く、双翅目やハバチなど地味で十分な研究がされていない昆虫の中にも絶滅しそうなものが多くあるでしょう。また、今後の自然環境の保全には貴重でなくたくさんあるものを、そのように保全していくことも大切と思われます。生物の保全とはそうした難しさを含んでいます。

科学技術は両刃の剣で、これを自然界に用いることは、よほど慎重でないと取り返しのつかないことになる恐れがあります。昔の里山で薪や炭のために木を手で伐っていた時には、案外自然も豊かな状態を維持できたかもしれません。しかし、科学技術には必ず目的が伴い、しかもその力が大きいだけに注意したいものです。

トヨタの森のような所で、いろいろな研究がなされ、それが雑木林を見る目を育て、林の荒廃を防ぐことを期待する一面、そんな心配も浮かんできます。

里山の自然をどう考えますか

今回のアンケートは、「里山の自然をどう考えますか」ということで、里山に関する考えや印象等についてお聞きしましたが、残念ながら回答は2通しかありませんでした。人々との係わりの中で形成された里山は、日本の原風景とも言える私たちに最もなじみの深い自然でした。しかし、燃料革命といわれる時代から農業の作業形態の変化などもあって、人々の暮らしが自然から離れていき、里山の自然は遷移とともに変化しつつあります。松くい虫による、マツ林の立ち枯れなども里山の風景を著しく変えました。こうして変わりつつある里山をどのように見るか、身近な自然と離れた人々の生活をどう見るか、これからの課題といえましょう。有機農業とかアウトドアブームなどが最近の動きとしてでていますが、人々と里山との新しい付き合い方がこれから始まるのでしょうか。協議会としても、こうした問題に取り組んでいきたいと思っています。

寄せられたアンケートの回答は、次のとおりです。



氏名不詳

私にとって里山の自然は最も大切な場所です。身近な海や川も好きですが、人間や動物の営みがほどよく調和しているような場所が好きです。いってみれば人間も動物も好きですから、自然度の高い所はむしろ敬遠しています。安易に踏み込む事に畏れを感じます。必要なら入りますがリゾートやレクリエーション気分で入ることは強い罪悪感を感じます。この地方の里山はあまりにも資源化されていたためにとても貧相であったように思います。いわゆるはげ山（差

別用語か？）状態。その里山の管理を放棄することによって成立してきた現在の里山を大切にしていきたいと思っています。つまらぬ手を加えずにほっておけばよいのではないかと思います。それが自然です。ただ、原体験活動に利用することはとても大切なことです。変な理くつをつけずに。かつてのはげ山もよかったし、今の姿もよい。私はそうと思っています。

東 義巳（名古屋支部）

里山は農山村道の整備進行につれてあちらこちらでは、車両持込みによる不法なゴミ捨場の現場と化している。

ゴミの種類は、事業所系（産廃）、家庭ゴミ（粗大ゴミ）などの多岐に渡り、それらは人目につきにくい道端であったり、堂々と人家付近にも捨てていく輩もいる。モラル低下と嘆いているが、捨てる人が後を絶たないのが現状である。

捨てる側の本音はただ一つ、処理費用を惜しむからであり、現在は事業所系で3tダンパー車程度では6～8万位の費用が掛る。それが自主投棄（？）で行えばただであるから不法投棄は無くならないのであろう。里山の自然が荒れる原因の一つであると考えられる。



雲と天気の話 (その二)

加藤寿芽 (知多支部)

前回は、イギリス人ハワードの雲の大分類 (巻雲系、層雲系、積雲系) の話をしましたが、現在では下の表のように十種の雲形に分類されております。

雲の写真を添えると大変よくわかりますが、前回の協議会ニュースでの雲の写真がはっき

りしませんでしたので、今回は遠慮します。県の発行した「四季の自然観察3」の「秋の自然観察」を参照して下さい。

表の雲のうち、1と2と9は、割に楽に分類できます。大空に一種だけの雲が浮かんでいることは少なく、5～6種混じっているこ

十種雲形表

学 名	高さ	俗 名	性 質
1. 巻 雲 (C i)	5～13 km	す じ 雲 は ね 雲	ちらばった白い雲で、細い糸状・細い帯状・布切れ状のものなどがある。いずれも陰影なく、光沢をもつ。 (氷晶)
2. 巻積雲 (C c)	5～13 km	いわし雲 さ ば 雲 うろこ雲	小さい粒状の雲片が集まって、薄い斑群または層状をなしており、白くて陰影はない。視角は1度より小さい。 (氷晶)
3. 巻層雲 (C s)	5～13 km	う す 雲	透きとおった白いベールのような雲で、ミルクを流したような無地である。多くは空一面を被い、日などにかさが現れることがある。 (氷晶)
4. 高積雲 (A c)	2～ 8 km	む ら 雲 ひつじ雲	うすい板状・うろこ状・ロール状の雲片が斑群または層をなしている。白色～灰色の雲で、一般に陰影があり、規則正しく並んでいる。視角は1～5度。(一般に水滴)
5. 高層雲 (A s)	2～ 7 km	おぼろ雲 どんより雲	灰色または薄い青色がかかった層状の雲で、空一面に広がることが多い。薄い場合は太陽がおぼろにに見える。 (氷晶と水滴)
6. 乱層雲 (N s)	0.1～2 km	あ ま 雲	灰色または暗灰色の厚い層状の雲で、多くの場合、雨または雪を降らせる。(水滴・雨滴または雪の結晶・雪片)
7. 層積雲 (S c)	0.1～5 km	くもり雲 う ね 雲	白色～灰色の雲塊が、モザイク状・団塊状・ロール状をなし、層になった雲。陰影がある。(水滴・雪あられ結晶)
8. 層 雲 (S t)	0.1～3 km	き り 雲	灰色をした層状の雲で、雲底は一樣。時に霧雨・細雪が降る。
9. 積 雲 (C u)	0.5～3 km	わ た 雲 つ み 雲 すわり雲	垂直に発達した雲で、はっきりした輪郭をもつ。盛り上がった部分は、白く輝く。雲底は平ら。(水滴)
10. 積乱雲 (C b)	0.5～ 12km	雷 雲 夕 立 雲	大入道のような雲で、頂きはカナトコ状になっている。雷雨を伴うことが多い。(上部：氷晶、下部：水滴)

とが多い。特に台風通過後、低気圧通過後、大雨後の大空は、雲数多く、形が複雑なものがあります。十種雲形表で分類が十分でなく、それぞれの項目が更に10分類されていますが、百分類を覚えてもしかたありません。

最初は、十種雲形の図解、写真を持参して、大空がよく見渡せる場所を選んで、腰を落着けて観察するとよいでしょう。そして記録をとります。移動中の車からの観察はだめですぞ！ 記録は、カメラを利用するとよいでしょう。最近には性能の良いカメラが多く出ていますが、雲を撮影する初心者には不向きで、マニュアルカメラが最適です。手持ちのカメラですと、マニュアルに切り替わるのが安心です。偏光フィルターがあるとよく、薄すぎる雲、濃すぎる雲、太陽の近くの雲は止めたほうがよいでしょう。また、地物（地上の風景）は、必ず撮り込んで下さい。雲の形に気をとられ、雲のみ撮ってしまうことがままありましたが、上下左右が分らず、後で困りました。街の中では車にも注意して下さい。向かいの歩道から見た雲がよいと思い、雲を眺めたまま横断して、叱られたこともありま

す。風景として良いと思ったら、必ず2～3枚撮るか、2～3歩移動して撮るのもよいでしょう。雲のショットは、瞬間的な感覚で写すものです。

雲は、大抵一方向から眺めた時の名前が付いていることが多いものです。巻雲系は底から頭上を眺めて名付けられた雲の名で、積雲（並積雲・扁平積雲・雄大積雲）や積乱雲は横から眺めて名付けられた雲の名です。一つの雲を四方八方、上下から眺めて写真を撮るとよく、それではじめて雲の形が分ると思います。

上から雲を観察できたのは、富士山の五合目からの雲海、飛行機からの観察で可能となりました。香港からの帰路、ブロッケン現象を見たことがあります。光の輪の中に飛行機が写っていました。それは、太陽と飛行機と雲の位置関係で現れる現象です。或る冬、雪を降らせて近づいてくる雄大積雲が、頭上を通過している時、雲底を眺めていたら、突然ポツカリと穴が開き、雲の頂上や柱状の様が観察できたときは、唯感激でした。

「名古屋城の樹木」絵葉書から

クサイチゴ

クスノキ



（絵：青木雅夫）

愛知県のブナ林は生き残れるか？

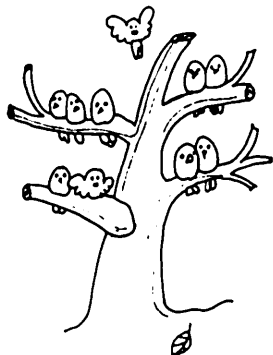
編集部

— はじめに —

自然観察といっても、自然の観察だけではなく人との関わりや環境をテーマにとりあげることも必要かと思います。環境教育の必要性がいろんな場面で言われ、自然観察会では自然保護あるいは自然愛護が環境教育に通ずるものと一般に言われています。しかし、自然観察をするということはとりもおさず、身近な環境を観察する、観察を通して環境を考えるということにつながるのではないのでしょうか。観察会でも機会をとらえて環境問題にも触れてみたいものです。

そこで、環境に関わる問題を自然観察会の場でうまく取り上げられないか、何回かいろいろなテーマで考えてみたいと思います。とは言っても、うまく観察会に使えるような話がまとまるかわかりませんが、とにかくしばらく続けてみたいと思っています。また、こんな形で進めるといいよというような話題などありましたら教えてください。このコーナーで紹介させていただきます。

今回は地球温暖化と愛知県のブナ林について考えてみました。



— 温暖化と植物 —

地球温暖化といえば海水面上昇が話題にされますが、例えば植物界においても大きな影響があると思われます。最後の氷期から現在まで、約2万年間の温度変化は約5℃と言われています。それが今後100年間で気温が2～3℃上昇すると植物にとってどうでしょうか。

植物の分布や植生には気候的な要因（温度と降水量）が大きく働きます。温度が上昇すれば当然に暖かい地域の植物が北の方へ、また高所へと移動することになります。

— 温暖化すると —

よく、山へ登るときに、100m上がると0.6℃気温が下がると言われます。ということは、気温が3℃上がることは標高が500m下がるのと同じことになります。現在標高900m以上の場所に生育している愛知県のブナ林は、標高1400m以上の高さでないと生育できないことになります。愛知県で最も高い山は茶臼山の1415mですから、100年後には茶臼山の頂上に10本位ようやくブナが残ることになるのでしょうか。実際、太平洋側のブナ林は、後継樹がうまく育っていないと言われているのは既にこうした影響があるのかもしれない。

緯度についてみると、日本付近では、1kmにつき0.01℃程度の変化と予想されていますから、計算上は3℃上昇は300km北上することになります。現在宮城県付近にある照葉樹林が津軽半島付近まで達するわけです。

林の観察では遷移についての説明をすることがよくありますが、気温と森林の関係をこんなふうに見てみるのはどうでしょうか。現実には温暖化といっても単純に気温上昇があるだけで、

はなく、降雨などにも影響があり、こんな単純な計算だけでは決められないでしょうが、こうした気温の変化と植生の変化は今までも起こっていたものです。それが今までのゆっくりした変化に納まらず、人の影響がこんなに自然を変えていくことに気が付けばよいでしょう。

— 植物の移動速度 —

過去の氷期以後の温暖化に伴って、植物の分布は時と共に変わってきたのですが、植物の移動の速さはどのくらいものと考えますか。観察会などでちょっと質問してみてもはどうでしょうか。

植物は種子を飛ばし、それが発芽して大きくなり、実を付けてさらに種子を飛ばすという反復により分布を拡げていきます。種子の飛ばせ方にも、風や水の利用などいろいろあり、分布の広がり方も異なってくるでしょうが、鳥に種子を運ばせるような被食拡散のような方法をとる場合でも、そんなに遠くに運ばれず、せいぜい1～2kmと言います。

次の表は、ここ1.5万年間にヨーロッパの主な樹種の移動の速度を推測した調査結果です。植物の移動の速さは、相当に遅いようです。ブナは、下の表で10年に2～3kmですから、100年で30km移動するのが限界で、それ以上に温暖化が速いといつてけないことになります。

樹 種	移動速度 (km/10年)
モミ類	0.4～3
マツ	15
トウヒ	0.8～5
カエデ	5～10
コナラ	2～3
クリ	2～3
クルミ	4
ブナ	2～3
シナノキ	0.5～5

注：ここ1.5万年間におけるヨーロッパの主な樹種の移動速度（ハントレー&パークス、1983より）

100年に3℃というような温暖化では、植物の世界はどうなるのでしょうか。実際の動きは別として、こんな話題を自然観察会でちょっと加えてみるのはいかがですか。

自然界は地球誕生以来、ゆっくりとしたスピードで変化してきました。生物も適応と進化を繰り返しながら、今の姿を形づくってきたのです。しかし、人間があまりに大きい環境変化を地球に与えたとしたら、これは大きな問題になると思いませんか。（近藤、佐藤）

会員紹介

時の許しを

太田順造（名古屋支部）

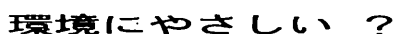
茶の湯を嗜むようになって20数年の歳月が流れた或る日、宗匠と夜咄の中で、茶花は野に咲く花が瑞々しく一番エエ花だと、当時50才にして見えて来た事があった。小学生の頃兄弟共々、各自の部屋に裏庭の草木花を生け飾れと、母が簾と併せ暮しを楽しむ教え、知恵を授けて

くれた事の意味がその時にしてやっと理解出来たのだったが、しかし、一旦現実に戻されるとその理解は何処へ、高度成長、効率優先生活にドブプリ馴れ親しみ、仮の心の豊かさ、マネー中心の考え方で環境破壊の片棒担ぎ、その40年も退任してみれば虚無感ばかり、己の人生は何だったかと反芻する日々ばかりでした。しばらくして閑暇生活スタイルも板についた或る

會員紹介

素足で踏む土が人間を育むのだ、自然の風合
がどんなにいいか、恵まれた自然の中で心
癒しその素晴らしさを知る森、それらの自然全
てを遊具として楽しむ自然志向の生活信条が、
子供の心の奥深く根付き育てゆくようにと願
いつつ、過日も50名近い小学生と同好の仲間
数名が協力しあって交流し、有意義な一時を過

幼少の時から日々暮しの中で培われる自然観、人間の本当の豊かさは自然界からだ、次世代に訴えることによって、過去に上塗った恥の払拭が、与えられた生の残存時間の範囲内で続けられたらと念じております。



最近よく「環境にやさしい」という言葉を耳にしますが、いつも本当かなと考えてしまいます。

自然観察ってなあに

山田 妙（名古屋支部）

5月10日（日）、定例の観察会に参加しました。4月、5月は初めての参加者が多く、どんな話をすればよいのかなと少々気を使いました。私のようなものの話でも真剣に聞いてもらえると、うれしい気持ちができるのと同時に、間違ったことを言っていないだろうかという不安もあります。

それにしてもいつも思うことは、「初めて参加します」といわれる方でも、植物の名前や花の咲く季節などを、とてもよく知っていられる方がみえるということです。その上で観察会に出てさらに何かを得ようとするのですからすごい意欲です。

2ヶ月ほど前のことです。定例の観察会のほかに何か目先の変った会はないかなと思って、私がサポーターをしているエコクラブの関係から、東海市のしあわせ村で、親子ふれあい教室があるので参加をしてみないかという話がありました。第二土曜日でもあり、仕事も休みなで、子ども二人を連れて参加することにしました。

内容としては、①自然観察会、②ネイチャーゲーム、③環境教育などに関する講話とあり、講師も〇〇大学講師とあるので、とても期待をして出かけました。

ところが当初50名ほどを予定していたという参加者が100名以上に膨らんでも、講師は一人のまま。こんな多人数で何をするのだろうと思っていると、いわゆる「ネイチャービンゴ」の用紙とスケッチ用の紙と鉛筆を渡され、12時頃までにビンゴゲームをしながら目的地まできてほしいというのです。

エコクラブの呼びかけなので、ネイチャーゲームの班は子どもだけの場合も多く、どうなるかなと少し心配でした。しかし市の職員の方も

何人かいらっしゃったので、ポイントごとに立って、アドバイスをされるものだと思います、ゲームを始めました。

ところが、公園の中のチェックポイントはビンゴゲームの川紙に示してあるだけで現地には誰もおらず、池にはカモがいても誰も観察の仕方を教える人はいませんでした。私は双眼鏡を持っていたので、色もわかりましたが、カモに気がつかずに、あるいはカモとはわからずに通って行ってしまう人も何人かいました。子どもだけの班など、誰も言わなければ池の対岸の小さく見えるカモなど気がつくはずがありません。

結局、ゴールまで1時間半ほどかかりましたが、自然観察のためのスタッフは誰もおらず、市の職員の方は急に予定に入ったお昼に配る豚汁作りに応援に行き、参加者とはほとんど行動することなく半日を終わりました。

私が見た子どもだけの5年生のあるグループでは、「丸いもの」「白いもの」などの答えに、自然とは全く違う人工物の名前がいくつも書かれていました。もし途中でアドバイスを受けていたら、そのような結果にはならなかったでしょう。

子どもたちを対象にした企画だからこそ、初心者向けに、観察の仕方や自然の見方を細かくていねいにアドバイスするスタッフが、参加人数に見合う数だけ必要だと思うのですが・・・。

豊かな自然とすばらしい天気恵まれた中で「ふれあい教室」だったので、何か一つでも新しい発見をして、身近にこんな自然があったんだという気持ちを持てる会にしてほしかったように思うのですが。



事務局から

〔行事結果〕

★ フォローアップ研修会「花と昆虫」

〔期日〕平成10年4月29日（西三河支部主催）

〔場所〕矢作川（岡崎市）（出席21名）

〔内容〕

環状線「中岡崎」駅へ集合し、矢作川に沿って観察しました。会員以外の参加もあって人数も多く、研修会というより観察会という雰囲気でしたが、道端の雑草から、お宮の森の木々、矢作川の堤防沿いの植物と観察の材料は数多くあり、好天にも恵まれて楽しい一日となりました。ヒラタアブ・ヒメハナバチ・ヒメマルカツオブシムシ・アオハナムグリ・ヒラタハナムグリなどの訪花甲虫も見られました。

★ フォローアップ研修会「土壌生物の観察」

〔期日〕平成10年5月30日

〔場所〕東山公園（名古屋支部度主催）

〔講師〕佐藤国彦（出席6名）

〔内容〕

前夜の雨が、朝には上がったけれど、土壌生物の観察にはあまり向かない日で、主催者としては中止しようかどうか迷っていたところ、6名の会員が集まり、兎に角見てみようということになりました。東山公園は、生涯学習センターの観察会などでも土壌生物の観察を取り入れた場所ですが、その時は土壌生物の種類はあまり多くないという印象でした。この日もみんなで熱心に探し回ったにもかかわらず、ヤスデ・イシムカデ・トビムシなど観察できた種類はそんなに多くありませんでした。

森などの分解者として土壌生物の役割は大切なものの、その数は環境や季節によってかなり差があるようです。協議会としても、土壌生物の環境別の違いなどを調べて、環境指標としての位置付けを探りたいと思っています。

★ 話題の地見学会「21世紀の森への管理」

〔期日〕平成10年5月31日

〔場所〕トヨタの森（豊田市）（出席15名）

〔内容〕

21世紀の森と称して、いろいろ里山の管理のあり方を研究しているトヨタの森を見学しました。当日は、会員でもある原田さんなどトヨタの森の方々が親切に案内していただき、ゆっくりと見学することができました。詳細は、この号で別に詳しくまとめました。

〔ふるさと観察会・シリーズ観察会〕

今年のふるさと自然観察会（県委託）とシリーズ観察会は、合わせて5回済み、次の7回が残っています。他の支部の観察会も覗いてみませんか。

ふるさと自然観察会

開催日	観察場所	時間	集合場所
7.26 (日)	振草溪谷 (東栄町)	10:00～ 14:00	J R 飯田線 浦川駅
10.25 (日)	相生山緑地 (天白区)	9:30～ 14:30	梅野公園東 運動場
11. 8 (日)	岩屋堂～雲 興寺(瀬戸)	9:30～ 14:30	岩屋堂温泉 バス停前

シリーズ自然観察会（里山）

開催日	観察場所	時間	集合場所
9.15 (休)	猪高緑地 (名東区)	9:30～	名東生涯学 習センター
9.27 (日)	吉田池周辺 (半田市)	9:30～	板山公民館
9.27 (日)	北篠平周辺 (小原村)	9:30～	小原和紙の 里駐車場
12. 6 (日)	岩屋山 (豊橋市)	9:30～	視聴覚セン ター

「会の名称」 (アンケート結果)

3月に会員の皆様に葉書を同封して、会の名称は現在の「愛知県自然観察指導員連絡協議会」と、「自然観察指導員愛知県連絡会」のどちらがよいかについて、ご意見をお聞きしました。その結果は、次のようです。

- 「自然観察指導員愛知県連絡会」 8名
〔理由〕
 - 初めに愛知県とつくとの機関みたい(2)
 - 事務局が県から離れたので変えた方がよい
 - 今までより固さがなくてよい
- 「愛知県自然観察指導員連絡協議会」 4名
〔理由〕
 - 公的機関のようで対外的によいと思う
 - 指導員の地域活動の総括・協議の組織として適当
 - 今までの名前に愛着がある
- どちらでも可 5名
- その他 1名
 - 「愛知自然の会」のような簡単な名前がよい

今回のアンケートの回答は、あまりに少なかったもので、これで名称を決める根拠とするのは難しいようです。しかし、会員のご意見のおおまかな傾向は出ているように、事務局としては思えました。現在の名前が長いこともあって変えたほうがよいという意見の方が半数近くいて、今の名前でも良いとする人や名前にはこだわらない人も意外に多いのではないかという印象です。

特に印象深かったのは、公的な印象を受けるからという同じ理由で、名称を変えたほうがよいという意見と、変えないほうがよいという意見の両方がみられたことです。愛知県の連絡会は、設立の経緯から行政との結び付きは強いこと、支部の活動は気楽にできるが、協議会には何となく発言しにくいという雰囲気もあるのでないかと思いますが、それを是とするか非とするか意見の分かれるところのようです。名称の問題には、会の性格に関する問題も含まれて

会 員 異 動

【加入】

- 金内 力〈知多支部〉 (0562-55-8614)
478-0021 知多市岡田字宝の脇 1-1
岡田住宅 1-202
- 長谷川 努〈尾張支部〉 (052-876-3397)
453-0003 一宮市萩原町黒沢 1-1607
- 今井 隆〈名古屋支部〉 (052-794-8745)
463-0072 名古屋市守山区金屋 2-98
- 金屋真奈美〈名古屋支部〉 (052-764-2160)
464-0045 名古屋市千種区城山町 1-45
相応寺住宅 H-8

【脱退】

- 小栗昭治〈尾張支部〉
- 手嶋君夫〈名古屋支部〉

【住所変更】

- 高木 謙〈尾張支部〉 (0565-62-3660)
444-2341 足助町追分字吉田 22-1 B-2
- 福西寿広〈名古屋支部〉 (052-912-8010)
462-0828 名古屋市北区東水切町 1-2-3
- 岡崎孝美〈尾張支部〉 (048-462-0562)
462-0828 朝霞市根岸台 1-8-63
ドエルアルス朝霞 403

きます。

名称の変更は、以前にも理事会等で提案されたこともありましたが、まとめにくいこともあってそのままになっていました。400人余の会員の意見がひとつにまとまるのは難しいでしょうが、今年の総会で事務局を県から離したこともあり、名称を変更するなら今が一つの契機と思われます。いろいろな機会をとらえて皆さんの意見を聞きながら、今年度中に結論を出したいと思っています。何かおもしろい案でもありましたらお寄せください。



定例観察会から

猪高緑地 3/21

今年2月3月の観察会で、毎回オオタカが確認されています。たまたまこの猪高緑地にきているのか、ここで繁殖するかは今後の観察が必要です。このオオタカがいることは、餌になる小動物がいて、その小動物の餌である植物昆虫屑が豊であることが証明できることなのです。いつまでも今の環境を残していけたらと思います。

大森湿地 4/5

観察会の後、希望者だけで蛭池のマメナシを見にいった。カツテ 150本あったマメナシは公園整備で半分に減り、池の回りに植えられたユキヤナギの白一色に圧倒され、花のつまの悪いマメナシは隅の方で寂しげに咲いていた。ついでに、散りかけたハナリキの雄花雌花も見えてきた。



大高緑地 4/11

琵琶ヶ池には、ダイサギやアオサギなどの大型のサギの仲間が見られます。特に、アオサギは以前は常に見ることがでなかったような気がしますが、最近は割とよく見ます。周囲の環境の変化でしょうか。現在、緑地南方の加古ヶ池が現状2号の工事で落ち着いていられないとか、池そのものが各地でなくなったり、親水工事という人間中心の工事が行われているなど様々な事情が考えられます。

猪高緑地 4/11

本年2月に雑木林に生えている竹約2000本を土木事務所において伐採していただきました。中に入って驚きました。部分的に雑木は枯れてしまい、幼木も1本もなく、そこだけスッポリ空が見える広場になっていました。

数年前の観察会では、ヒサカキ・コナラ・アカマツ・タカノツメ・ムラサキシキブ等があったと記憶しています。竹の繁殖のすごさを実感できるところです。

東山公園 4/19

東山の裏山のトウキョウサンショウウオ生息地は、愛知県の他の生息地に比べて、恵まれているとのことで、この自然環境を引き続き守っていくことの大切さを感じました。しかし、ここでも4月初めに多くの卵塊が盗まれていました。大変残念でたまのません。トウキョウサンショウウオの最大の敵は、ヘビではなくて人間のようです。



相生山 4/26

2年前は1株だったブタナが、64株に増えていた。桜並木から白竜ヶ池までは在来タンポポが多く残っている。

大森湿地 5/13

旧池に昨年誰かがフェンスを乗り越えて植えていったミズバショウが芽生えている。旧池の北側にも数年前から植えられ、今年は4月下旬に2株、見事な花を咲かせた。植物を盗掘するばかりでなく移入する人もいる。八竜湿地に本来ない植物を持ち込むことについて、考えてもらう観察会ともなった。

東山公園 5/17

苗場の奥の森の入口近くに生えていたヒメカンアオイ2株が5月の初めに盗掘されました。4月の半ば頃には花を咲かせているのを確認しています。

(各報告書から事務局でまとめたものです)

定例観察会から

善師野 1/24

何といっても今日の一番は、オシドリ(♂) トモエガモ(♂)の逃避行でしょう。北洞池には期待したオシドリの姿は見えませんでした。やがて茂みの中にオシドリの雌雄がいることがわかりました。みんなでワイワイ騒いでいると、オシドリの雄だけが陸に上がりだしました。雌もと思っていると、次に上がっていったのはトモエガモではありませんか。しかも雄どうし。互いにお尻をふりふりさせながら雑木林の中へ消えて行きました。その姿を追って雑木林の中へ踏み入ると、例の2羽が飛び出しました。オシドリにトモエガモがぴったり寄り添うような形で、池の上を旋回し、飛び去っていきました。オシドリの雌は茂みから姿を見せませんでした。時代がそうさせたのではないかと話しながら、飛び去る姿をただただ見送るだけでした。(このような行動はよく目撃されているようで、習性がよく似ていることから起こるのではないかということです。)

定光寺 2/14

正伝池に流れ込んでいる大洞川岸の桜の大木が切り倒されていました。昨年この桜の満開の花をバックにみんなで写真を撮りましたのに残念です。切り株の年輪を数えてみました。桜は年輪がわかりにくいのですが、50年ぐらい経っているのでしょうか。解散後、希望者で土岐川へオシドリを見に行きました。4羽ながれに浮かんでいました。



善師野 2/28

北洞池でのんびりと昼食をとっていると、びっくりする発見がありました。黒い実をつけたヒメヤブランがあっちにもこっちにも。

気が付かないものです。花の時期が楽しみです。越冬したルリタテハやテングチョウが目をあびてユックリ飛んでいました。

森林公園 4/ 5

スズメが集合場所の前のケヤキの巣箱へ巣材を運び入れようとがんばっていました。くちばしだけで大変そうです。今日のニュースは、トウキョウサンショウウオの親が見られたことです。手入れをしていた人が尾根筋で見つけたとのことでした。10cmくらいの、イモリのような皮膚をした生き物です。卵も2対見つかりました。日のあまり当らない水たまりが好みだそうです。

森林公園 5/ 3

クロミノニシゴリにシロシタホタルガの幼虫が多数ついていました。ヒメジャノメやコムシジが顔を見せる。ゴミグモが巣づくりを始めた。



明德公園 5/ 3

花は、ヤブコウジ・スイカズラ・スノキ・ガマズミ・ソヨゴ・カマツカ・エゴノキ・イボタねじきなど。6日に土木事務所の方が明德の現地に話し合いに来てくださる。湿地の笹を刈って様子を見たいとのことでしたが、この笹原にはウグイスが営巣しているので刈るのを止めて欲しいと野鳥の会から申し入れがあり、その旨伝え、笹を刈るのは止めると決めてくれました。これからは何かあるごとにこうした話し合いが出来ることが大切だと思いました。都市型公園の利用と管理の仕方は、これからの明德の課題です。

(各報告書から事務局でまとめたものです)

行 事 案 内

☆基礎研修会「ビオトープとは」

期日：平成10年7月11日（土） 午後1時30分～4時

場所：愛知県スポーツ会館（第3会議室）（地下鉄名城線「名城公園」駅下車西へ徒歩10分）

講師：松尾 初、他

- ・各地でビオトープといわれるものが作られています。ビオトープとはどんなものか、その現状と問題点について考えてみたいと思います。

☆研究会「里山の管理について①」－里山の現状－

期日：平成10年8月2日（土） 午後1時30分～午後4時30分

場所：愛知県中小企業センター（第1会議室・7F）（名駅前毎日ビル裏）

内容：里山管理のあり方について研究会の第1回として、県下の里山の状況を分析してみたいと思います。

☆視察研修会「桶ヶ谷沼と蕎麦粒山」

期日：平成10年8月29～30日（土日）

場所：桶ヶ谷沼（トンボ池）、蕎麦粒山（ブナ林）－静岡県－

- ・乗用車の相乗りで行く予定です。（集合は、地下鉄本郷駅9：00、他の予定）
- 歩く距離はそんなに多くありません。宿泊は、山犬の段にある無人の山小屋の予定です。（寝袋用意）詳細は、参加希望者にお知らせします。

★問合せ先：いずれも佐藤（☎05617-3-5674）まで

※ 編集後記 ※

《原稿募集》新コーナー開設！

次号から、「山びこ広場」というコーナーを設けます。これは、会員の皆様の情報交換の場所として使っていただこうと思う気軽なコーナーです。自分はこんなことをするので見に来て欲しいとか、こんなものを見ただけで何かわからないとか、最近こんなことが気になるけどどうかなど、どんな内容でもかまいません。（自然以外のことでも）積極的に編集部まで原稿をお送りください。その他の原稿もお待ちしています。

（近藤）



＝ 目 次 ＝

話題の地見学会「トヨタの森」	1
アンケート⑤ 里山の自然	4
雲と天気の話②	5
愛知県のブナ林は生き残れるか？	7
会員紹介	8
太田順三、岩崎員郎	
自然観察ってなあに	10
事務局から	11
支部だより	13
（名古屋、尾張）	